

匍匐性マリーゴールドのネグサレセンチュウ防除効果を確認しました

- 匍匐性マリーゴールド‘グランドコントロール’は‘アフリカントール’と同等のネグサレセンチュウ防除効果があります。
- 地表占有面積率が高いので除草作業の省力化が可能です。



匍匐性マリーゴールド‘グランドコントロール’



慣行品種 (立性)
‘アフリカントール’

【背景・ねらい】

後作がダイコンの場合、スイカなどの夏野菜を作付けしない畑では、ネグサレセンチュウの対抗植物としてのマリーゴールド作付けが望まれています。

しかし、慣行品種のマリーゴールド‘アフリカントール’では、植付け後に除草の労力がかかることや、マリーゴールドの花が餌となってオオタバコガが誘引されてしまうことが懸念されています。

そこで、匍匐性マリーゴールド‘グランドコントロール’のネグサレセンチュウに対する防除効果と抑草効果等を検討しました。

【栽培上の留意点】

- 1 ‘グランドコントロール’、‘アフリカントール’ともに地床で育苗し（播種4月上旬）、畝間・株間とも50cmで本圃に定植（5月上旬）します。
- 2 ネグサレセンチュウに対する防除効果を維持するためには、毎年マリーゴールドを栽培する必要があります。
- 3 ‘アフリカントール’は立性、‘グランドコントロール’は匍匐性です。‘グランドコントロール’では、定植60~90日後には地表面を最大で80%占有します。
- 4 ‘グランドコントロール’は‘アフリカントール’に比べ、単位面積あたりのオオタバコガの幼虫寄生数は少なくなりますが、オオタバコガの発生時期には注

